

言語:概念と比喩

1. 言語
2. 概念
3. テキスト理解
4. 比喩

言葉というものは正しい使いかたをすれば、ちょうどX光線のように
なり得るんだよ。どんな物の中にも突入するのだよ。読む人の心中に突
き刺すんだよ。 ハックスリー 松村達雄訳『すばらしい新世界』

1 言語

1. 入力系—中央処理系—出力系を支える機能
[コミュニケーション、貯蔵、思考、社交、鑑賞...]
2. 処理を支える4技能
[読む、聞く]→文字・単語認知、テキスト・談話理解
[書く、話す]→発話、書字、作文
3. 言語獲得 音声言語の獲得 生得的な「言語獲得装置」
文字言語は系統的学習→識字 = literacy
4. テキスト理解(統語的と意味的処理)を支える知識
文字、発音、文法
概念(語彙)、世界知識、文化、文脈...

2 概念

- カテゴリの心的表象、知識の構成要素
 - 語の意味、一組の事物・事象やカテゴリに関する情報
- 概念表象
 - 定義的特徴
 - 原型
 - 「理論」
- 概念構造
 - 階層構造—上位-下位、空間
 - 非階層構造—時間、因果、機能、理論
- 概念の機能
 - 分類、説明、推論、コミュニケーション、結合

3 テキスト理解

- プロセス
 - テキストの意味を符号化→保持→検索
- 影響する要因
 - 読み手の知識
 - ・スキーマ(Bransford & Johnson, 1973)
 - テキストの構造
 - ・ global structure—物語文法(Thorndyke, 1975)
 - ・ local detail
 - 上記の相互作用 interaction
 - ・ 状況モデル(van Dijk & Kintsch, 1978)

その手順はまったく簡単です。まずものをいくつかの山にわけます。もちろん、その全体量によっては、一山で十分でしょう。もし次の段階に必要な設備がないため、どこか他の場所に移動する場合を除いては、準備完了です。一度に沢山やりすぎないようにすることが大切です。沢山にしそうするより、少なすぎるほうがましです。...中略.....

近い将来にこの作業の必要性がなくなると予見することは困難です。いえ、なくなると言える人はいないでしょう。その手順が完了したら、それらをいくつかの山にまた分けます。それから、それぞれ適切な場所におかれます。そしてそれらはもう一度使われ、またこの全サイクルがくりかえされるのです。ともかく、それは生活の一部なのです。

Global structure vs. local detail

- 両者が理解に影響
 - global structureが通常と異なると理解が困難
 - ・村上春樹『アフターダーク』
 - local detail の要素は、理解や記憶のしやすさに影響
 - ・片山恭一『世界の中心で愛を叫ぶ』
 - 学校、げた箱、下校、部活、学芸会、入院

物語文法 (Thorndyke, 1975)

- 物語→設定+主題+プロット+解決
 - 設定→登場人物+場所+時間
 - 主題→(出来事)* +目標
 - プロット→エピソード*
 - エピソード→下位目標+試み* +結果
 - 試み→出来事* / エピソード
 - 結果→出来事* / 状態
- 解決→出来事/状態
 - 下位目標/目標→願望状態
- 登場人物/場所/時間→状態

* :省略可

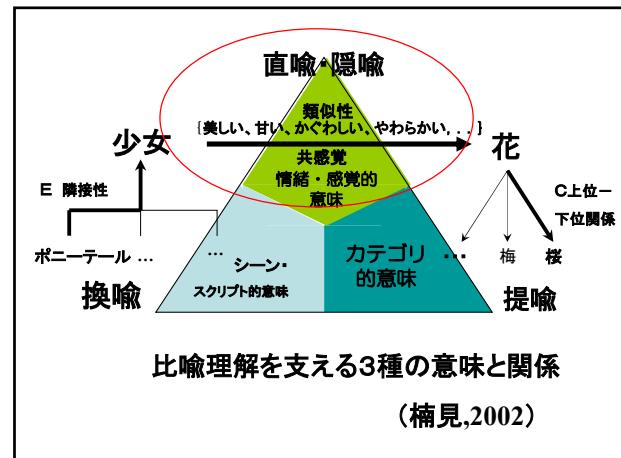
van Dijk & Kintsch's model

- 理解は、読者が事象、状況などの一貫した表象を作るための能動的過程
- 読解の3段階
 - 表層オーム: 単語、文などから明示的命題を抽出
 - テキストベース: 暗示的命題を推論
 - 状況モデル: 読み手の期待と世界知識に基づいて、文章に描かれる状況についての心的表象を構成

<http://instruct.uwo.ca/psychology/227e-550/Comp3.ppt>

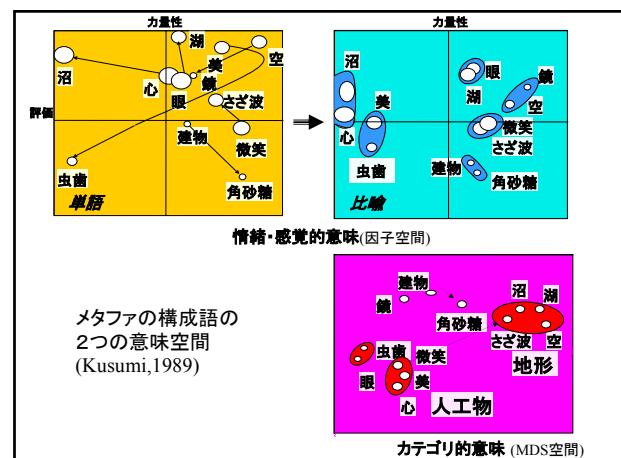
4 メタファー: 種類と処理モデル

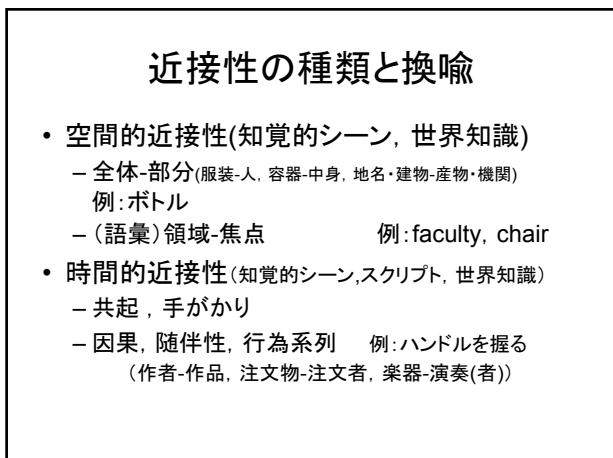
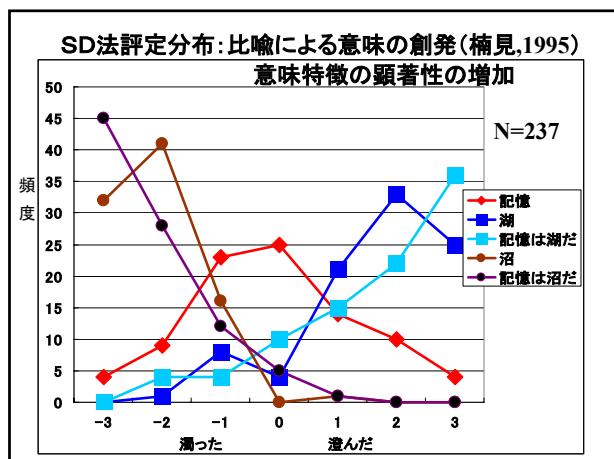
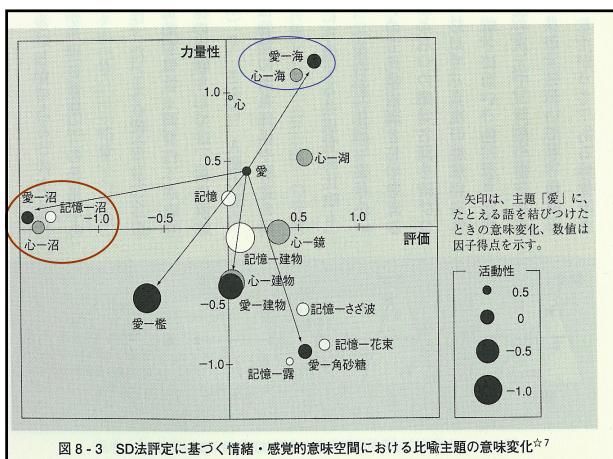
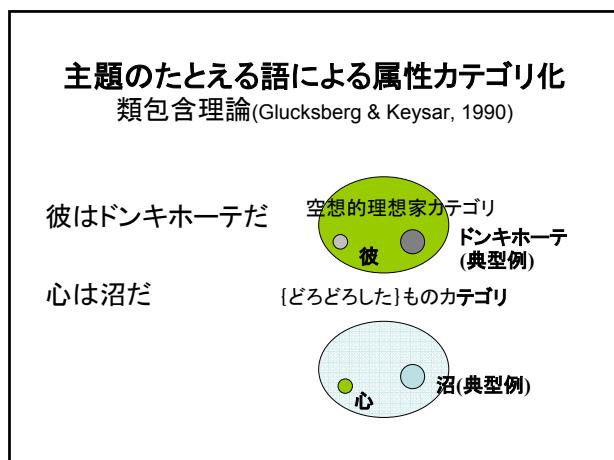
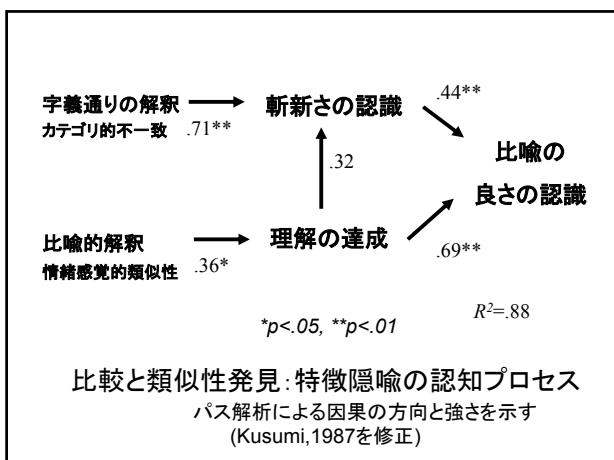
- a) 特徴メタファー = 「心は沼だ」は、主題「心」とたどえる概念「沼」の間の比較あるいは相互作用、カテゴリ化によって
類似特徴(どろどろした、深い...)の発見や創発
主題とたどえる概念の領域が離れているほどメタファーは斬新(楠見, 1995)
— 特徴照合モデル、相互作用モデル、類包含モデル、ニューラルネットワークモデル
- b) 関係メタファー = 「眼は心の窓である」は、4項アナロジーにおける関係の類似性[眼:心:窓:家]の発見(Tourangeau & Sternberg, 1982)
— 推論モデル
- c) 慣用・概念メタファー = 「人生は旅である」は、概念領域「旅」を「人生」領域に転移することによって、両者間に構造的類似性(同型性)が成立。そして、関連性、一貫性のある複数の比喩が生成(例: 旅立ち、分かれ道、道連れ)(e.g., Lakoff, 1987)
— メタファー知識ベースモデル、構造写像モデル



類似性の種類と隠喻・直喻

- 知覚的類似性 — 知覚群化、共感覚、特徴隠喻
 - 関係的類似性 — 連想、概念形成、帰納推論、関係隠喻
 - 構造的類似性 — 構造隠喻、概念隠喻、類推
- 1 ⊂ 2 ⊂ 3





単語	文脈
黒い	.08
ベル	.08
電話をとる	.04
番号	.03
受話器	.23
...	...

換喻構成語の連想値

N=239

(Kusumi, 1997)

